

芸術と文化をテーマに、統一感のあるイベント企画で街おこし

福 野 町 商 工 会

機関名	福野町商工会		
所在地	富山県東砺波郡福野町 1 1 0 0 - 1		
電話番号	0 7 6 3 - 2 2 - 2 5 3 6		
地域概要	(1)管内人口 1 万 5 千人	(2)管内商店街数 4 商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 4 商店街	(2)会員数 1 0 2 商店	
	(3)空店舗率 9. 9 %	(4)大型店空き店舗数 1 店	
商店街の類型	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成 12 年度	空き店舗対策事業 総事業費	芸術をモチーフにしたイベント 17,429 千円
平成 13 年度	活性化対策事業 総事業費	イベント、 6,227 千円

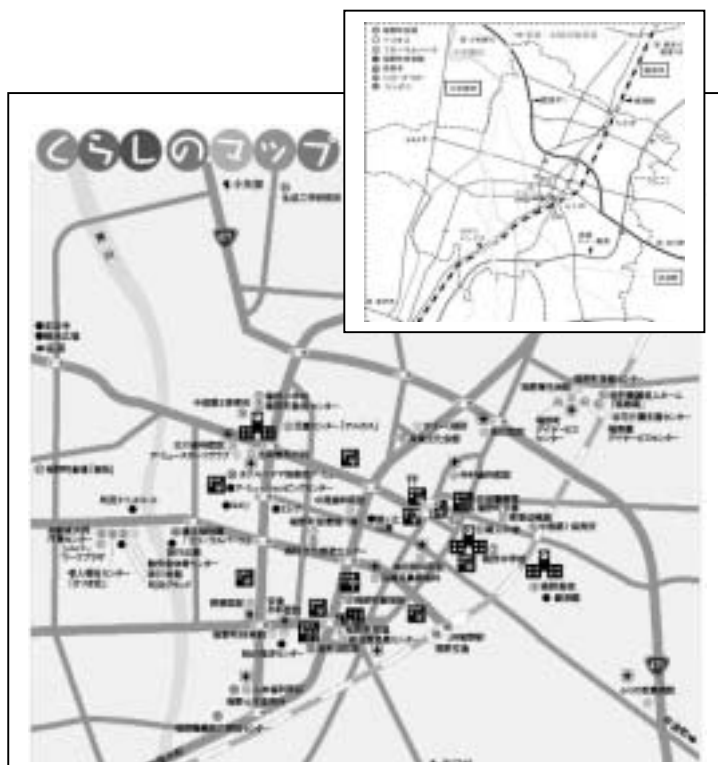
【事業実施内容】

1. 背景

富山県西部、砺波平野の中央にあるのが福野町。庄川流域の肥沃な土地と豊かな水に恵まれ、昔から水田率の高い穀倉地帯であった。江戸初期に町立ての許可があり、毎月 2 と 7 の日に「市」が立つようになり、南砺地方の交易の中心地となった。これが「市の里」と呼ばれる所以である。周辺町村との合併を繰り返して今日にいたるが、いまだ人口は 1 万 5 千人。中心商店街も地元住民が日常の買い物をする程度のものである。

その福野町商工会が目指すのは、芸術や文化をテーマにした事業を行うことで、交流人口を増やし、町の活性化につなげることだ。

平成 8 年度には、「産業&観光&情報ネットワーク」をテーマとした「地域振興実現化事業」、平成 9 年度には、「観光、芸術・文化、交流によるまちづくり」をテーマとした「地方・都市交流推進事業」を、そして平成 10 年度・11 年度は、「ギャラリーFUKUNO 芸術家が集う街」をテーマに「提案公募型地域活性化事業」と一貫して「芸術・文化のまちづくり」事業に取り



福野町の位置と中心部

組んできた。

この流れの中で、これまでの成果をさらに深めるため、平成 12 年度は、国・県・町の補助による「商店街等活性化先進事業」を、平成 13 年度は「商店街等活性化事業」を推進した。

2. 事業内容

平成 12 年度は「アート」「食」「音楽」の三部会を編成し、総数 31 にも及ぶ芸術・文化に関する祭事を行った。また、平成 13 年度には、これらに加えて「朝市」の部会を設置、伝統ある福野の 2 と 7 の朝市(毎月 2 と 7 のつく日の朝市)の賑わいと活気の再創出に貢献した。

(1) 名称

ふくの「市の里」 アートフェスタ 2000 2001

美しい文化・芸術のまちづくり 「ギャラリーFUKUNO 芸術化が集う街」

(2) 目的

消費不況が叫ばれる中でも心の豊かさは重要視され、人々が文化・芸術・観光に求める期待は大きく、商店街を訪れる人も文化の薫り、心のゆとり、心の満足を求めている。これからの商店街は単に商業活動の場に留まらず、訪れる人のニーズを満たす文化創造・情報提供の場でなければならない。そこで、「芸術・文化のまちづくり」をテーマに、先進的な芸術・文化活動を行うことで他町との差別化を図り、より画期的な商業の再生を期すため、本事業を実施した。

(3) 体制

地域における商店街等の空き店舗対策、集客対策及び商店街等の活性化を図るための調査研究及び先進的事業の実施方針の検討・評価を行うため「商店街等活性化先進事業実行委員会」を設置した。

構成員は

- 1) 学識経験者
- 2) 地方公共団体の担当職員
- 3) 商工会の役職員
- 4) 関係団体の役職員
- 5) 地域商業関係者
- 6) 都道府県商工会連合会の役職員
- 7) 専門家(民間コンサルタント、中小企業診断士) など

(4) 内容

(平成 12 年度事業)

●アート部会：

(1) コラボレーション「空間アート IN 福野」展

福野町中心商店街の数ヵ所の会場(商店、空家、町屋、歴史的建造物の伝統的空間など)で、多摩美大生(協力)、有名作家、地元住民などによるアートの競演を行った。

・木版画、日本画、油画から彫刻、フレスコ画まで、さまざまな芸術を公開制作。同時に、地元小・中・高校生による富山 100 選写生大会などを開催。

(2) ワークショップとアートバザール

フレスコ画展とフレスコ画体験教室、イタリアの絵本展と絵本づくり教室、陶芸教室と陶芸作品展、福野縞手織り体験ワークショップ、手織り博物館（世界の手織り展）など、質の高い作品を鑑賞するだけでなく、実際の制作を体験するワークショップを開催し、アートに親近感を持ってもらうような企画を数多く実施した。

(3) ドットコム拠点整備

インターネットなどの電子商取引は地方こそ活用すべきで、空き店舗を有効活用し、SOHO ビジネスやサイバービジネスを商店街に導入するほか、ホームページによるリアルタイムの商店街情報を発信し、地域密着型の商店街になるための拠点作りを行った。企画としては、福野町の自然や文化をテーマにしたホームページコンテスト「アートホームページ大賞」やホームページ上に自分の作品を掲載できる「ネットアートギャラリー」を開催した。

●食の部会

- ①おかずコンテスト
- ②薬膳料理開発と食談義
- ③食の伝承人料理教室

●音楽の部会

- ①街中お寺コンサート（街中オペラ PART I・PART II、街中カンツォーネ）
- ②街中クリスマス

（平成 13 年度事業）

●アート部会

- ①キッズ・アート・プロジェクト

多摩美大学生の指導により福野小・中学生がワークショップスタイルで造形作品に挑戦する

- ②市の里倶楽部

町内に散在するギャラリー「市の里」を利用して町民や高齢者が楽しめるクラブ活動を行う。

「ニーハオ中国」「ヒーリングの演出方法」など

- ③散策ロードマップ作成

商店街および古い街並みを残す芝井川近辺の「散策ロードマップ」を作成

●音楽の部会

街中お寺コンサート（尺八の調べ、街中シャンソン）

●朝市部会

朝市の活性化事業（チラシ折込、スタンプラリー、イベントの開催、出店者調査）

【 効 果 】

(1) アートに関するイベントを集中的に実施することで、これ迄の成果にさらにプラスされ、芸術・文化のまちづくりが完全に定着し福野町のイメージUPとなった。

- (2) 他町にはない芸術あふれる魅力的な事業により、消費者は商店街に来街することが楽しみとなり集客率もアップした。
- (3) 商店街の人達が自ら取り組んだ結果が集客増となって現れ、あきらめムードの強い商店経営者に自信とヤル気を促す契機となった。
- (4) 空き店舗のギャラリー化により商店街としての個性が増し町外からの見学者が増加した。

【課題・反省点】

- (1) 各部会の部会長はその分野の第一人者よりも商店街の人達より選出するほうが実践的である。
- (2) お寺コンサートなどチケットの販売に関しては各商店の方と慎重に相談し各店の売上げ目標を必達してもらうようにすること。
- (3) マスコミは大いに活用すべきである。特に事前報道は重要。余裕をもって案内を出して是非取材に来て頂けるよう努力すること。

【教訓】

商店街の方々がアイデアを出し合い参加協力するイベントがもっとも盛り上がり、商店街に連帯感が生れ、結果として集客性も高まる。委員会をこまめに開催し各部会に分かれて協議し合うことが重要。高齢者と若者をターゲットに絞り込む方が効果的と感じる。

【関連URL】

福野町商工会

<http://www.shokoren-toyama.or.jp/~fukuno/>

福野町観光協会

<http://www.shokoren-toyama.or.jp/~f-kanko/>

1



「2・7の朝市」チラシ

朝市は毎月2と7のつく日に開催。8月12日から12月27日まで通算27回開かれた。出店者数616人、来場者数4,389人、スタンプ押印客3,581人と盛況だった。



朝市の風景



アート部会は常設のギャラリーを使つての企画展示と市内のお寺の本堂をお借りしてのコンサートなどを行った。ただの展示だけでなく、公開制作や制作体験など、来場者参加型の企画に人気が集まった。



「アートフェスタ 2000」ポスター



地元新聞記事



朝市にあわせてさまざまなイベントも行われた。毎月27日はYOSAKOI 踊りの日、地元高校生の出し物などなど。



スタンプラリーは通年で行われ、27回すべての朝市でスタンプをもらったパーフェクト賞は27人、20回以上の方が64名、7回以上が310人だった。

福野町商工会

福野市は平成 10 年 11 年と「ギャラリー FUKUNO 芸術家が集う街」をテーマに「芸術・文化のまちづくり」に取り組んできた。平成 12 年の事業もその流れを汲んでのもの。一貫したコンセプトが街のイメージを定着させることになる。



「アートフェスタ 2000」PR

有名俳優画家の絵画展を開催した



コンサートチケット



お寺の本堂を利用したコンサート。音楽だけでなく、簡単な食事やお茶が供されて、和やかな雰囲気。